

事業の基礎情報

実施主体	函館市地域公共交通協議会
事業実施地域	函館市
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	商業
共創パートナー	函館市、(株)未来シェア、函館第一交通(株)、サツドラ・ホールディングス(株)
運行形態	AIデマンド交通
運行主体	函館第一交通(株)（本補助金交付決定後、公募により市内タクシー事業者から選定）

取組の概要

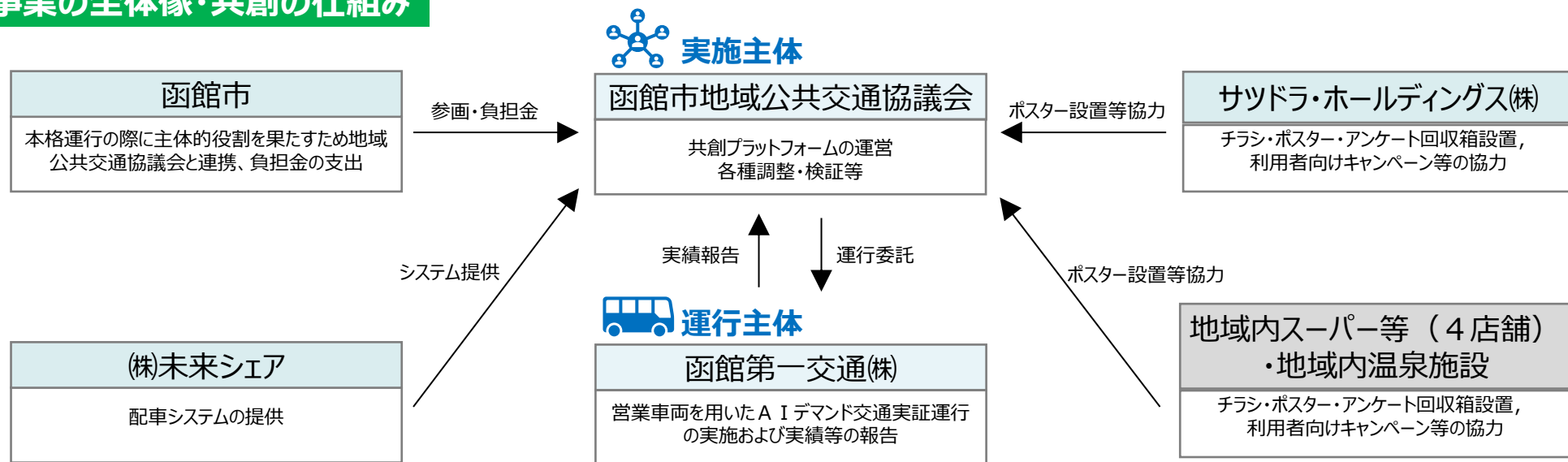
（現状の地域課題と事業目的）

函館発祥の地として、その風光明媚な景観と異国情緒漂う歴史的建造物が建ち並ぶ西部地区は坂道が多く、急な斜面に宅地が立地している一方、日常生活に欠かせないスーパーなどの商業施設や公共交通機関は坂下に集中しており、加えて同地区は市内他地区に比べて高齢化率が高いことから、坂道による移動の困難性を解消し、外出を促進することによって地域の活性化を図ることを目的とし、また、公共交通維持のため将来的な全市的展開を見据えた新たな移動サービスの活用を検討するものである。

（事業の概要）

地域の交通事業者・市民代表・関係機関などで構成され、地域公共交通会議と法定協議会の機能を合わせ持つ函館市地域公共交通協議会を主体とし、公立はこだて未来大学発の市内企業である(株)未来シェアが配車システムを提供、運行は市内のタクシー事業者へ委託し、タクシー事業者の営業車両を用いたドアツードア・A I デマンド方式による運行を行う。また、地域内のスーパー・ドラッグストアなどの商業施設がポスターの掲示やチラシの設置等を行い、A I デマンド交通の利用を促進する。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

本実証運行は函館市の新たな移動サービスについて検証するものであるため、交通事業者や市民などの幅広い意見を取り入れて進める必要があることから、現在その機能を有している函館市地域公共交通協議会が主体となる。また、公立はこだて未来大学発の市内スタートアップ企業である(株)未来シェアが提供する配車システムを使用し、将来的な本格運行の主体となり得る市内のタクシー事業者を運行主体とするほか、地域内の生活拠点である商業施設が運行のPRを担うものである。

(実証事業により見込まれる効果)

乗合方式による移動サービスにより、西部地区特有の坂道移動の困難性を解消することによって外出を促進することが期待でき、地域住民の経済活動の活発化や健康増進効果などが期待できる。また、公共交通の需要が低下する日中時間帯において、新たな移動サービスによる既存公共交通機関を含めた利便性向上を図るほか、深刻化する路線バス運転手不足対策への対応策のひとつとして、将来的に日中時間帯に大型二種免許以外での運行可能な交通モードへの転換可能性について検討が可能となる。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

- R6.4 函館市地域公共交通協議会総会（運行内容等の詳細の検討開始）
- R6.5 函館市地域公共交通協議会ワーキンググループ会議（運行内容等の詳細に関する検討）
地域内商業施設との P R 等に関する協議の開始
- R6.8 函館市地域公共交通協議会と(株)未来シェアとの間において配車システムの提供に関する契約を締結
函館市地域公共交通協議会と函館第一交通(株)との間において運行に関する契約を締結
函館市地域公共交通協議会総会（運行内容の最終決定、道路運送法第 2 1 条による乗合運行に関する決議）
函館第一交通(株)による道路運送法第 2 1 条の乗合運行の申請
- R6.10 地域公共交通協議会による運行地域住民に対する運行内容等の説明会の開催
函館市西部地区 A I デマンド交通の実証運行開始
- R7.2 函館市西部地区 A I デマンド交通の実証運行完了

(補助事業実施後の予定)

本実証運行結果を元に、西部地区における A I デマンド交通の本格運行に向け、事業主体・運行主体を含めた事業の枠組みや効率性・利便性・持続性・地域性のバランスがとれた運行内容を検討していくほか、全市的に効率的で利便性の高い公共交通ネットワーク形成のため、A I デマンド交通の横展開を検討していく。また、A I デマンド交通を含む小規模需要に応じた地域交通、いわゆる「葉の交通」を検討する際に、利用者確保のためには地域住民に「自分たちの乗り物」という意識を持っていただくことが重要であることから、本実証運行結果により、地域住民の生活拠点である商業施設などを課題解決のためのプレーヤーとしてどのように加えられるかについても合わせて検討を進めていく。